



いのちより、たいせつなもの

乾隆

登場人物

枇口 小春（ひぐち こはる、二十六才、女）

枇口 哲（ひぐち てつ、十九才、男）

井上 麻紀（いのうえ まき、二十才、女）

幸原 柁介（ゆきはら しゅうすけ、十九才、男）

守 奈津（もり なつ、十七才、女）

第一場 銀色の庭。

小さな裏庭。

たくさん置かれたプランターや植木鉢の中から銀色のつるがのび、晴れた日の陽光に反射してキラキラしている。

一脚だけベンチがある。

サンダル履きの足音。

帰ってきた小春が玄関のほうから庭へやって来る。

ベンチに鞆を置き、中にあるはずの鍵を探す。

やっぱり、見当たらない。あきらめた。

鞆から、今写真屋さんでもらってきたばかりの写真を出し、一枚一枚眺める。ピースサイン、しあわせそうな笑顔、作り笑い？ 若さ。

少し、腹が立って、ビリッと破いた。破いた半分で紙飛行機を折って飛ばす。残った半分も、まだある写真も、何枚も何枚も、紙飛行機を作って飛ばした。
玄関の開いた音がする。家の中から「ただいま」と声がする。

弟の声「誰もいないの？」

小春「はい」

ガラス戸が開き、弟の哲が顔を出す。

哲「何、してんの？」

小春「鍵、どっかで無くしたみたい。見当たらなくて」

哲「これじゃないの？（キーホルダーの付いた鍵を見せる。）テーブルの上にあったよ」

小春「え、あ、そっか。庭から出掛けたんだった」

哲は少し笑う。

小春「どうだった、紅葉狩り。楽しかった？」

哲の後ろから

哲の友達 「おじやましてます」

小春 「ああ、気づかなかった。こんにちわ。名前、何だったっけ」

哲の友達 「幸原（ゆきはら）です。」

小春 「幸原くん」

哲 「来週ぐらいに行ったらちょうどいいのかも」

小春 「まだ、だったの？」

哲 「んー、何これ」

地面に散らばっている。

小春 「紙飛行機」

哲 「それは分かるけど」

小春 「写真。さつき、写真屋さんに取りに行ってきたの」

哲 「あ、俺頼んでたやつは？」

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

いのちより、たいせつなもの（おためしサンプル）

2018年11月3日 初版発行

著 者 乾隆 © 2018年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529
